



安全登山教室 <6月号>

危険な生物に注意！（その1—毒のある生物の回避策と「やられた」時の対処策）

新型コロナ禍もようやくピークを過ぎつつあり、夏に向け登山計画を立てていらっしゃる方も多いはず。登山では、道迷い、滑落などのほか、危険な生物に遭遇し、①毒にやられる、②襲われるのも大きなリスクです。今回は、「危険な生物に注意！その1」として、毒のある生物の回避策と、「やられた」時の対処策を一緒に勉強していきましょう。 <参考図書:『屋外における危険な生物』財団法人日本自然保護協会(平凡社) >

1. 蜂(スズメバチなど)

日本の生物で「最恐」なのは、クマ(年間死者平均約2名)やマムシ(同5名)ではなく、ハチ(同17名)です。ハチ刺されによる死亡事故は、ほとんどがスズメバチで、アナフィラキシーショックによる血圧の低下と上気道の浮腫による呼吸困難が原因となります。ショック症状は頭部や頸部を刺された場合に多く、極めて短時間(刺傷後数分~10数分)で症状が現れます。**症状が出るまでの時間が短いほど重症になる可能性が高く、速やか(15分以内)な救急要請が必要です。**「声が枯れる」など気道閉塞兆候が出てしまうと、そのあと数分以内に窒息して死亡する危険性が高くなります。

(1)回避策

- ・スズメバチは黄色と黒の大型のハチで低山に多い。活動期は春~秋。不用意に近づかないのがポイント。
- ・黒いものを攻撃する性質があるため、野山に行く際には、白っぽい服装で、黒髪の方は帽子をかぶる。頭から被る登山用の防虫ネットも一定の効果があると考えられる。
- ・慌てて手で払いのけようとすると、警戒フェロモンが発散され、瞬時に興奮したハチの集団に襲われる。走らず、騒がず、静かに身を低くしてゆっくり後ずさりしてその場を離れる。

(2)「やられた」時の対処策

- ①毒抜き:ポイズンリムーバーでの吸引、爪で絞り出すなど
髪の中など、ポイズンリムーバーが使いにくい部位では下手に使うと毒を拡散させるので注意
- ②水で洗浄:ハチの毒は水溶性なので毒が奥に入り込む前に①と交互に行う
- ③軟膏の塗布:ステロイド軟膏(リンデロン VS など)を塗布
リンデロン Vs は市販されており、アブ、ブユなどにも効くので救急薬として携帯したい
- ④ショック症状が出た場合:速やかに救急要請する

参考 HP: [不快なだけではない虫刺されのリスク。スズメバチに刺されたら最初 15 分で判断を 医師/小阪健一郎先生に聞く \(第2回\) YAMAYA - ヤマケイオンライン / 山と溪谷社 \(yamakei-online.com\)](http://yamakei-online.com)



2. ヘビ(マムシ・ヤマカガシ)

沖縄など南西諸島を除くと、北海道から九州までに生息するヘビは8種(アオダイショウ、シマヘビ、ジムグリ、シロマダラ、ヤマカガシ、ヒバカリ、タカチホヘビ、マムシ)で、そのうち毒のあるのはマムシとヤマカガシです。

<見分け方>マムシ:太くて短い小さなヘビ。模様がはっきりしている。

山地、平地などの開けたところの縁(例えば田畑や登山道周辺など)に生息。

活動期は晩春~秋。夏は草むら、晩春や秋は石の上などに多い。

ヤマカガシ:体長1m前後。全体として黒っぽく前半身に黒斑に赤い模様が目立つ。

活動期は春~初冬。餌となるカエルの住む水辺に多い。生息数はマムシほど多くない。

(1)回避策

- ・マムシ :積極的に攻撃してくることはなく、50 cm以内に近づかなければ安全。
マムシの生息しそうな条件の山では、注意深く行動する。
春や秋は石の上などにいることが多く、不用意に石をつかんだり、腰を下ろしたりしないよう注意。
- ・ヤマカガシ:最近まで毒ヘビと認識されていなかったほどで、意図的に触れなければ、噛まれることは少なく、噛傷事例も少ない。ただし、毒性はマムシより強く毒の成分も異なるので、マムシと違う血清が必要で迅速に対処要。

(2)「やられた」時の対処策 ※ まず咬まれた時、それがヘビなのか、どのようなヘビなのかを見極める。

- ・マムシの場合:マムシの毒は、主に咬まれた局所の痛みと腫れで、多くは 5～10 分以内に始まってだんだん広がる。年間 1000～2000 件の噛傷報告に対し、致死率は1%以下で高くないが、顔や首の周りを噛まれると窒息の可能性があるので特に急ぐ必要がある。子ヘビでも毒性は同様。
- ・ヤマカガシの場合:マムシと毒の性質が違うので、別の血清でないと効かないことに注意。

<共通して厳守すべき点>

- ①あわてるな！ 毒の回りはそれほど早くない、慌てて脈が速くなると毒の回りが早くなる。
救急車を呼べないなどやむを得ない場合は、歩けるうちに医療機関に向かう。
- ②やたらに縛るな！ 日本の毒ヘビの場合、圧迫体の良い効果はほとんど立証されていない。毒作用に加えて酸素欠乏で組織が死に機能障害が残ることもある。
- ③やたらに切るな！ 噛まれると毒は一気に組織に分散するので切っても意味がないし、毒の作用で組織の抵抗力が極度に低下するので、細菌感染によるリスクが高まる。
部位によってはポイズンリムーバーが使える場合もある。
- ④その他 酒は飲むな、氷などで冷やすな、
(どの種類のヘビに噛まれたか判定せず)勝手に血清を打つな

<応急手当>

- ①患者を休ませる
- ②患者を安心させる(たとえ数時間たっても血清は有効に使える)
- ③噛まれた局所を動かさないようにする
- ④好ましくない全身的な症状に気をつける
- ⑤できるだけ早く患者を医療施設につれて行く

参考 HP: [年間 2000 人が被害に…「マムシ咬傷」での致死率は 0.8% | 日刊ゲンダイヘルスケア \(nikkan-gendai.com\)](#)



マムシ



ヤマカガシ

3. ダニ類(マダニ・ツツガムシ)

○マダニ

人間の血を吸血する生物で、低山から高山まで生息し、活動期は春～秋で、食いつくと1週間くらいそのまま吸血されます。その脅威は吸血そのものではなく、感染症を媒介することにあります。日本紅斑熱、ライム病などのほか、最近特にマダニ媒介重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が西日本から中部地方まで拡大しつつあります。SFTS は、潜伏期間が6日～2週間、発熱、消化器症状(嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血)などがみられ、血小板減少、白血球減少、血清酵素の上昇が認められ、致死率は 10～30%程度と高いため、医師の診断を受けることが必要です。

○ツツガムシ

ダニの一種ツツガムシは、幼虫に刺されるとリケッチア(生きた細胞の中に寄生する最近の仲間)によってツツガムシ病を発症する場合があります。川岸のアシなどの中に多く、特に発症の多い東北・北陸地方の活動期は春と秋から冬にかけて、関東以西では晩秋から冬にかけてとなります。潜伏期間は5～14日後に、高熱を生じ、さらに2、3日後に全身に1～2 cmの紅斑が多発します。刺されても気が付かない場合があり、もし前記のような症状が出たら、ツツガムシ病を疑い、医師の診断を受ける必要があります。

(1)回避策

- ・ダニの本来の吸血対象である野生動物の多く生息しているところになるべく立ち入らない(登山では、これを守るのはなかなか難しい)。
- ・肌の露出を極力避け、半袖半ズボンでは行動しない。
- ・「ディード」「イカリジン」という成分を含む虫よけの薬(高濃度のものを選ぶ)は、ダニに対し一定の効果がある。ただしディードはプラスチック製品や化繊を溶かす性質があるので注意。
- ・できるだけ早くマダニを見つける。白っぽい服だと気が付きやすい。

(2)「やられた」時の対処策

- ・その日に食いついたばかりのマダニは取り除きやすいので、登山後速やかに食われていないかチェックする。
- ・ピンセットなどで皮膚に近い口元の方をつまみ、引き離す。胴体をつぶすと唾液腺物質が皮膚に一気に押し込まれる危険性があるので十分注意する。
- ・スズメバチと違い、炎症ではなく、感染症がリスク。下手に自力で引き離すより、病院を受診する方が確実。

参考 HP: (国立感染症研究所): [マダニ対策、今できること \(niid.go.jp\)](https://www.niid.go.jp/niid/ja/00000/00010/00015/00015030.html)

4. 救急要請

スズメバチやマムシにやられた時は、病院の受診が必要になりますが、**特にショック症状など重い症状が現れた時には、速やか(15分以内)に救急要請を行う必要があります。**

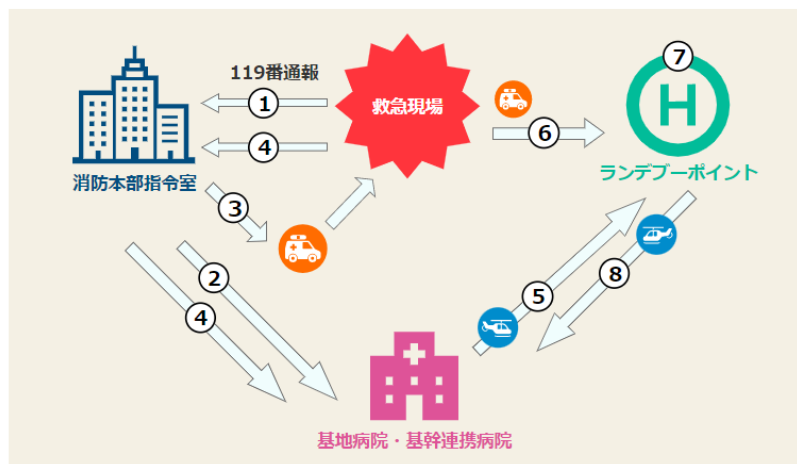
また、マムシやヤマカカシの場合、それぞれの血清のある病院で受診する必要があります。

最近、山岳救助においてドクターヘリが活躍しており、特に上記のような対応が求められる場合、迷わず要請することが必要になります。

ドクターヘリは、登山者が直接要請できず、119番通報を受けた消防指令室が、通報内容や、出動した救急隊の報告からドクターヘリの必要性を判断し、基地病院に出動要請します。

まず、119番通報し、緊急性が高いことを具体的に伝えてください。

119番通報から搬送までの流れ



参考 HP: [ドクターヘリを知るードクターヘリとは \(hemnet.jp\)](https://www.hemnet.jp/)

以上